

## スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	東京外国語大学
整理番号	B02
構 想 名	「世界から日本へ、日本から世界へ」 一人と知の循環を支えるネットワーク中核大学ー

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b>A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、「真の多言語グローバル人材を養成する大学」、「日本から世界への発信を担う大学」及び「日本の大学のグローバル化を支援する大学」の3つの柱を目標に掲げている。「日本語、日本の文化・社会」を世界に発信するという構想の主目的や、留学200%等の意欲的な数値目標、世界大学ランキングを見据えた戦略的アプローチは、本事業の趣旨に適うものであり、幅広い言語や地域を扱う東京外国語大学ならではの意欲的な取組である。</p> <p>語学教育や日本研究を含む地域教育、国際ネットワークの推進等については、外国語大学としての長を踏まえた構想に基づき、着実に成果を挙げている。特に、諸言語の達成度を国際標準に基づき可視化したCEFR-Jの構築は、大学の強みを活かした取組であると同時に他大学の参加にも繋がっており、外国語教育のリーダー的役割を果たしているものと高く評価出来る。また、これまで積み重ねてきた国際的なネットワークを活用した協定校との深い信頼関係に基づくGlobal Japan Officeや、学生の留学の実態に即して学内の留学制度を改善したTUFS留学支援共同利用センターによる活動が他大学にも開放された具体的な留学支援に繋がっていることも特筆に値する。今後、これらの活動の拡充により、ネットワーク中核大学として、国内他大学を含めた学生への留学支援やグローバル化支援に果たす役割は非常に重要である。</p> <p>一方で、目標の達成状況に関して、国際化関連の各指標の達成度が低いことがやや懸念される。外国語力基準を満たす学生数では、特に大学院生において数値目標を大幅に下回っており、今後の取組の強化が望まれる。また、留学制度の整備は進捗しているが、混住型学生宿舎や奨学金制度の拡充は今後の課題であろう。</p> <p>本構想が目指す日本教育・日本語教育の世界展開は、今後の我が国の留学生獲得や日本文化の発信にとって極めて重要な施策であり、全学的、組織的支援の更なる強化を期待したい。</p>	